

# 「こどもの文化体験“はじめての一步”を支える連携プロジェクト」(仮称)

## 企画概要

### 【1】 目的

- ① 市民シンポジウム「子どもの体験格差を考える」（2026年3月7日石橋文化会館小ホールで開催）【注1】を出発点として、「こどもの文化体験の入口」を地域の中で支えるために「地域の中で一緒に動いてみる場」（連携）をつくる。  
【注1】別添の西日本新聞2026年3月9日朝刊を参照。
- ② 文化体験へのアクセスに偏りが生まれている現状を踏まえ、連携によって、こどもの体験のきっかけとなる小規模な取り組み「ミニ実証実験」を試行する。
- ③ 文化体験へのアクセスの偏りという課題を踏まえながら、「こどもの文化体験“はじめての一步”を支える」ゆるやかな現場連携の可能性を探る。

### 【2】 ミニ実証実験・案

- ① 実証実験となる取り組みの主な対象は、体験機会につながりにくい子ども・親子とする。
- ② 実証実験は1回だけ小さく試す（単発で継続前提にしない。例えば「10人以下程度の開催で1～2時間の時間設定」の規模感）。
- ③ 実証実験はお互いできることの「持ち寄りモデル」（「やっていること・出来ることの延長線上にあるもの」）で行い、ワークショップや、展示、ミニイベントなどを想定する。
- ④ 実証実験は、無理なく試すためにプログラムをゼロからつづらない。出来ることを持ち寄る。
- ⑤ 実証実験参加者にアンケートをとり、実証データをとる。

### 【3】 プロジェクト(全4回程度)の流れ・案

	目的案	内容案
第1回	① 会の目的共有による連携の一致 ② 連携のタネ（自分が出来ること）の「みえる化」を試みる	・ミニインプット（体験機会の偏り現状把握）と目的共有 ・各自の活動3分紹介 ・ワーク「自分が出来ることや困っていること」

第2回	お互いの「出来ること」のマッチングをし、企画づくりをやってみる	・ 第1回の振り返り ・ ワーク「一緒になにやれそう？」
第3回	企画づくりを具体的な設計へ	・ 企画を実際にやる形に仕上げる (企画の数に合わせたグループ毎のワーク)
ミニ実証実験		
第4回	結果を共有し、次の展開を考えてみる	・ 実証実験の結果を共有する ・ 続けるか広げるかの判断を共有する

#### 【4】 第1回会合で共有したいこと

- ・ 市民シンポジウムで明らかにされた「久留米の子どもの体験格差」現状
- ・ この連携で何を大切にしたいこと
- ・ 小規模でも意味のある取り組みとは何か

#### 【5】 スケジュールの目安

第1回・・・7月

第2回・・・9月

第3回・・・11～1月

第4回・・・3月

#### 【6】 予算

予算処置はないところからはじめるので、既存資源・既存活動をそれぞれが持ち寄ることで、小規模でも実施可能なモデルを試行する。

呼びかけ団体

特定非営利活動法人 舞台アート工房劇列車

代表理事 釜堀 茂

久留米市山本町耳納838-1

Mail [info@dramatrain.jp](mailto:info@dramatrain.jp)

Tel 090-8222-8928(釜堀)